

新除草・調節剤

エチル-N-(2-プロポキシエチル)アセトアニリド……プレチラクロール 1.5%を含有する類白色の細粒である。

本剤は、ピラゾキシフェンの作用とプレチラクロールの作用の特性を活かし、極めて高い除草効果を発揮する。ピラゾキシフェンは、雑草の茎葉部と根部から吸収されるが、主に茎葉部を通じて吸収され、雑草の上方、下方いずれにも容易に移行する。その作用は、主に白化による光合成の阻害、それに伴う雑草の飢餓状態、衰弱を経て枯死に至る。一方、プレチラクロールは、クロロアセトアニリド系除草剤に属し、雑草の幼芽部および幼根部より吸収されて植物体内を移行し、作用点（蛋白合成系）に到達して蛋白質の生合成を阻害して雑草を枯殺する。

特徴：①広範囲の雑草に有効である。ピラゾキシフェン単用でも、ノビエ・コナギ・タマガヤツリ等の一年生雑草はもとより、マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・ミズガヤツリ等の多年生雑草をも同時に防除できるが、プレチラクロールとの混用により、ノビエ・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリに対する効果が一段と増し、広範囲の雑草全般に極めて高い効果を発揮する。②除草効果が安定している。処理適期幅が広く、また確実な効果を発揮するため、気象の年次変動や地域性によって生ずる雑草のダラダラ発生の状態においても、常に安定した効果を発揮する。③抑草期間が長い。適地においては、40日以上は雑草の発生を抑えるので、中期剤を省略することができる。④水稻に対する安全性が高く、温度や土壌条件によっても影響されることが少ない。⑤人畜に対する毒性が低く、魚介類に影響が少ない。

毒性：急性経口毒性は普通物、魚毒性はB類である。

使用方法：移植後3日から10日までに、10a当り3～4kgを湛水散布する。より優れた除草効果を発揮させるには、代かきから移植までの期間をできるだけ短くし、雑草発生始めの移植後5日頃までに散布するとよい。

使用上の注意：①雑草の発生始期散布の効果が高いので、時期を失しないように早めに使用する。また、多年生雑草は、生育段階によって効果にふれがでるので、必ず適期に散布する。ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワは2葉期まで、ミズガヤツリは発生始期まで、ヒルムシロは発生期が本剤の散布適期である。②苗の植付けが均一となるように、代かきをていねいに行なう。③散布にあたっては、水の出入りを止め、湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも4～5日間は通常の湛水状態（3～5cm程度）を保ち、田面が露出することのないようにし、また落水やかけ流しはしない。④軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、砂質土および漏水の大きな水田では、散布後の初期に一時的な生育抑制やクロロシスを生ずることがあるので使用しない。

ワンオール粒剤8の適用：北海道においては、ピラゾキシフェン8%とプレチラクロール 1.5%を含有するワンオール粒剤8を使用する。

ナブ[®]乳剤

セトキシジム乳剤

（取扱メーカー）

日本曹達株式会社

新除草・調節剤

対象作物：てんさい・小豆・大豆・枝豆・かんしょ・キャベツ・にんじん・かんきつ・桑・非農耕地。

成分・作用特性：本剤は、(土)－2－(1－エトキシイミノブチル)－5－〔2－(エチルチオ)プロピル〕－3－ヒドロキシシクロヘキサ－2－エノン……セトキシジム20%を有効成分とする淡かっ色澄明可乳化液体である。

本剤は、選択性茎葉処理型の除草剤で、イネ科雑草の茎葉部より吸収されて移行し、茎頂分裂組織(生長点)の細胞分裂に関与し、イネ科雑草を枯死させるが、広葉植物にはほとんど活性を示さない。土壌などの環境中では、すみやかに代謝分解されるので、環境汚染のおそれのない農薬である。

特徴：①イネ科植物のみに選択的な殺草効果を茎葉処理で示し、広葉作物生育期に安全に使用できる。②イネ科雑草の発生後から分けつ中期の処理まで、幅広い処理適期を持つ。③吸収移行性が大きく、散布後の降雨等の環境条件による除草効果への影響は少ない。また、イネ科多年生雑草の地下茎にも強く作用する。④散布水量・水質にかかわらず、安定した効果が得られる。⑤茎葉処理剤なので、雑草の発生により部分散布も可能であり、経済性に富む。⑥人畜に対する毒性は低く、魚介類に対する危険性も少ない。⑦土壌中ですみやかに分解され、後作への影響はない。

毒性：製剤の急性経口毒性値(LD₅₀)は、ラット(雄)に対し4216 mg/kgで普通物である。また、コイに対する魚毒性値(TLm 48h)は、1.6 ppmでB類である。

使用方法：一年生イネ科雑草防除では、上述

の畑・野菜作において、イネ科雑草3～5葉期に10a当り150～200 mlを100～150 lの水に希釈し、茎葉散布する。また、かんきつでは200～400 mlを、桑では200～250 mlを生育期に同様に処理する。なお、かんきつ園でのススキ・チガヤに対しては、生育期に500 mlをマシン油0.4%加用し、刈取代用として使用する。

使用上の注意：①広葉雑草とカヤツリグサ科には効果が期待できないので、イネ科雑草優占圃場で使用する。広葉雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。②遅効性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに7～10日を要するので、誤ってまき直しなどをしないように注意する。③かんきつ園では、マシン油0.4%を加用し、刈取代用除草剤として使用する。また、ススキなどの多年生イネ科雑草を対象とする場合は、薬液が作物にかからないように注意する。

安全使用上の注意：①本剤を散布する際は、マスク・手袋などをして、散布液を吸い込んだり多量に浴びたりしないように注意し、作業後は、顔・手足など皮膚の露出部を石けんでよく洗い、うがいをする。②誤って飲み込んだ場合は、多量の水を飲ませて胃の中のものを吐き出させ、安静にして直ちに医師の手当を受ける。③散布に使用した器具・容器の洗浄水、使用残りの薬液、空びんなどは水に流さず、焼却、埋没等により、環境汚染の起こらないよう安全に処理する。④非農耕地で使用する場合は、その注意事項を遵守する。